

読書界～藤高生の声～



先日の読書週間の際、図書当番さんの協力の下、図書館で本を借りた人たちに自分の借りた本について簡単な感想文をお願いしました。普段とは違う、図書委員ではない藤高生の言葉を聞いてください。

『空の中』 作者・有川浩

主人公たちが皆、自分の中に信念を持っているので、読んでいて羨ましくなりました。また、彼らの行動力の凄さには、読んでいてワクワクしてくるし、スカッとします。

『つくもがみ貸します。』 作者・畠中恵

日常におきるささいな、でも当の本人たちには大変なことの謎を解き明かすプチ推理ものでした。本のいたる所にストーリーの伏線がはってあって、「あ！あの時の！！」という驚きと納得の連続でした。



『植物図鑑』 作者・有川浩

ほんのキャッチコピーのとおりの、まさしく「花を育てるように、この恋をそだてよう」な作品でした。言葉では表現できない、恋の甘酸っぱさや切なさを、ふんだんに盛り込んだ、何度でも読みたくなるような本でした。

『新参者』 作者・東野圭吾

秋の夜長ということもあり、一気に読んでしまいました。ひとつの目的地に別々のルートで向かうような感覚で、ひとつの章が終わるごとに、心がほんわかして続きもはやく読みたいなという気になりました。「昔懐かしい江戸っ子の人情」が、文章全体からわき出てくる中で、この作者らしいシリアスな場面もあるため、終わりに向かいながら、物語がひきしまっていくように感じました。「新参者」である主人公の、新鮮な推理と動きに見とれながら、謎がひもとかれていくドキドキ感と、静かな江戸の町並みから連想されるのどかなムードに満たされて楽しく読めました。

『化物語』 作者・西尾維新

作者いわく「作者の趣味150パーセントで書きました」なこの作品。主人公、兼、ツッコミ担当阿良々木暦と妙にキャラ立ちした各登場人物たちとの流れるような会話は、まるでコントかなにかを見ているかのよう。そして、その間に織り交ぜられた小ネタにクスリと笑みがこぼれること間違いなし。さらに、活字だからこそ味わえる作者の小技には思わず魅了されてしまいます。「これホントに小説？」とツッコミを思わずいれてしまう、そんな一冊（上・下巻）。

いかがだったでしょうか。これは！！という一冊がありましたか。もしあったなら、ぜひ図書館で借りてください。もしなかったなら、上から順番に借りてみてください。

最後に、このたびは図書委員会に感想文をくださった方々、本当にありがとうございました。掲載にあたり、多少加筆、訂正、ネタばれ防止がありました。そのところはご了承ください。

それでは、今後も図書館を御ひいきに。